

Title	摘録
Author(s)	
Citation	地球 (1932), 18(5): 389-391
Issue Date	1932-11-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/184099">http://hdl.handle.net/2433/184099</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

ダンテ研究の興味が復活した時にはまたその興味が彼の作品に表はされた。哲學者等がブレイトの哲學と基督教との調和を試みた時に當つては彼の描くマドンナはその影響をうけて純眞なる宗教心と人間の深き情味とを裝飾的な美しさを以て表現した。怪烈なる説教僧の聲を聽いては彼は基督と修道の爲めに晩年の藝術を献げた然かもその描く何れの繪も力強き獨創性を表はし従つて畫家の個性を發揮し以て何人も彼の繪は彼の繪なりとて他と混同し得ない作品を遺してゐる。さてこそ彼を以てフ市の代表的畫家なりと云ふ所以である。

## 摘 錄

### ○北海道に於ける第三紀火山活動の時期

帝國學士院學術研究獎勵資金及事業便覽(昭和七年度)所載  
田上政敏氏北海道に於ける第三紀火山活動の層位學的研究  
北海道に發達する新生界の分類は次の如し。

一、石狩統(古第三紀層) 火山活動停止期

二、幌內層  
川端層(新第三紀層)  
追分層  
遠別層  
上部幌內時代に於ける火山活動の先驅  
初期火山活動時代

三、瀧川層(洪 積 統)  
月寒層  
第二期流紋岩  
第二期安山岩

四、河成段丘層(沖積統) 火山解析時代  
洪涌地層

幌內時代 新第三紀層の基底は必ずしも幌內層でなく石狩の標準幌內層の分布は著しく制限されてゐる。幾春別川より登川に至るものを代表的幌內層とすれば遠別幌內層之に最も近く、雨龍、オピラシベツのものは甚だしく性狀を異にし、南方邊富内のもの亦同じい。増幌、浦幌、樺太に點在するものも特徴を異にする。是等各地の所謂幌內層は石狩の上部幌內層に最もよく似て居るが、川端層の下部にも似てゐるから何れを代表するか疑問である。幌內層下部は石狩統後の海侵の結果形成されたのであるが北海道には局部的に分布してゐる火山噴出物が殆ど無い。然るに幌內上部層に於て初めて著しい火山噴出物が増加し、凝灰岩を介在する。

川端時代 幌內層上部層と川端層との區別は石狩地方では明瞭であるが、其以外の地域では區別判然せぬ、是等を總合し中間層又は幌川層と呼ぶのが都合がよい。この中間層は道内に廣く發達し、先幌內層を不整合に被覆し著しい海侵を示す。殊に火山地域では之と前後して活動した火山岩及び其の碎屑物が著しく發達して居、千島火山帶、天鹽火山地、渡島

後志半島を作り南下奥羽火山域に連絡したものであらう。所謂綠色凝灰岩、斜長流紋岩は其の代表岩類である。此以後の地層は多少の凝灰質で、天鹽、雨龍、留萌、樺戸、邊富内、根室等の幌内頁岩狀岩層は概して凝灰質頁岩である。故に是等の凝灰質岩層は幌内後の生成と見るべきではあるが其の下部に来る凝灰岩及び流紋岩の一團は幌内層との關係明確ならざれども恐らく上部幌内以後のものならん。幌内上部層から川端層を代表する海成層は道内各地に於て新第三紀層の基底部として發達する。而して火山岩類に流紋岩類及び其の碎屑岩を作ふ。

追分時代 川端層に比し火山活動は減衰し、火山岩、集塊岩の介在著しく減じ、凝灰質の砂質頁岩類が多い。

遠別時代 遠別川に於ては凝灰質砂岩頁岩層に安山岩類及び其の碎屑岩が介在する。遠別層に對比せられる貫氣別地方の岩層も殆ど同様である。此の時代になつて火山活動は再び旺盛となつたものゝ如く岩質は川端時代に比し甚だ鹽基性なのを特徴とする。遠別時代の終り又は洪積世以前に逆用したと思はれる鹽基性火山岩類の岩床岩脈等は幌内、川端、追分の各層に接觸變質を與へて居る。

瀧川時代 瀧川層は第三紀最上部層よりも若いと思はれるが洪積統に入れる確證はない。根室山地層、塘路層、舌幸層等も瀧川層と同様著しく火山灰及び浮石に富み、低層の發達著しく次の月寒層に類似する所もあるが一方最上部第三紀層と

の區別も難かしい。岩層の大部分が灰色火山噴出物より成り含有化石の保存新しきと火山地域に發達する水平層なる等の點から假りに洪積統の下部を代表するものとした。猶ほ遠別層が鹽基性火山岩類に富めるに反し瀧川層には酸性火山岩類の碎屑物たる石英砂を多く含むである。此の時代の熔岩流として十勝岳、大雪山等の基磐を構成する流紋岩の噴出があり其の碎屑岩と共に十勝地方では最上部第三紀層と覺しき地層を被覆するといふことである。十勝、大雪の熔岩臺地に對比せられる原地形面は喜茂別附近でも三百米以上に見られる。

月寒時代 旭川盆地の近文神樂臺地は前記大雪山凝灰岩上に不整合に來る河湖堆積層より成る。留壽都臺地の火山碎屑物は貫氣別層を不整合に被覆する。月寒層は一部海成で近文層に對比せられる。根室臺地、紋別海成段丘、築別、粟來、志文臺地等も同時代の堆積層より成り、海拔百米は超えず。大雪山、十勝岳の安山岩類から成る火山錐は此の時代又は此の後の生成に係る。

河成段丘時代 最上部河成段丘及び扇狀地を意味する。月寒層及び河成段丘層に熔岩の介在なきは火山活動が漸く現在の地域に限られる様になつたことを示す。増毛火山臺の如き河成段丘以前月寒以後の形成と見られるのも少くない様である。此の時代にはライマンの舊沖積層とした崖礫層も出來た。洪涌時代 現在の堆積に係る河成段丘扇狀地等で第二段以下は大抵之に屬すべく、河水の氣候的氾濫に基づき形成した

ものと考へられる。豊平川篠舞附近の最上部段丘を除き第二第三、第四等の段丘も之に入るものであらう。火山活動の爲めに多少の堆積はあつたが寧ろ火山は剝削のため著しく低下縮小された。風斜路、赤井川、洞爺等のカルデラ湖は舊沖積世よりも古い時代に形成された様である。

## 新著紹介

### ○世界經濟地誌、北米篇

西龜正夫著 共立社發行

定價二圓七十錢

達筆な著者の輕快な文章で北米の自然と經濟地理をのべたものである、菊版二八六頁、附圖百一圖いづれも明瞭に出來てゐる、參考書としての良著であると信じる、卷末に註として、いろ／＼の學術語の解説があるのは、結構な試であると信じる、索引のないのが物足りない。(藤川)

### ○最新地理術語解説

耕崎正夫著 東京文林堂發行

定價十五錢

本書は著者が作つた日本地誌(未刊)の附録にした術語解説のみを知友の要望により一小冊子にしたものである。四六判二九頁の片々たるものではあるが、それでも日常の地理書や雜誌に出てくる大凡の地理の學術語に關しては、簡單ではあるが要領よく解説が出來てゐる。地學辭彙といふべきものが出来ない間は、かうした小冊子と雖も猶讀者を失はぬであらう。(藤川)

### ○郷土教育運動

小川内通敏著 刀江書院發行 定價八十錢

菊版二八〇頁の冊子である、最初の方は郷土教育の必要といふこと、ルブレー、ゲッデス理論の教育化といふことが外國にあるといふことを教へ、つぎに郊外地研究の地理學的根據を論じ、日本の各地に於ける郷土研究の實際をのべてある我等はこの書によつて目下いかに郷土地理の研究が動いてゐるかを學ぶことが出來ると思ふ。(藤川)

## 雜 報

### ○米國に於ける桐油栽培の成績

桐油には防水性と乾燥性があるので支那人は數千年以來桐油を用ひた、彼等は有ゆる木石細工に用ひ、デヤンク船に防水劑として用ひ、家具にぬり、帛布、紙類に使用し、其糊性を利用して板の表面の填充劑とし甲板の填隙に用ひた、燈火用にはならぬが石鹼藥品となり、コンクリートの用にさへ供された、それが一八六九年に初めて米國に輸入されてから、防水劑ペイント及ニス製造の必要品となり電氣の絶緣具、雨具、風呂場のカートン自動車のアレーキバンド等から各種の日用品に用ひられ本品に代るべき有効品は他に見當らないので、この桐油を支那から輸入する量は年々に増加し、毎年一億ポンドの多量を渡口